

## 第3回新東名高速道路 高松トンネル施工技術検討会の

### 開催について(2022年12月7日)

中日本高速道路株式会社東京支社秦野工事事務所(神奈川県秦野市、所長・伊原泰之)は、2022年12月7日に、新東名高速道路 高松トンネル施工技術検討会(座長：西村和夫 東京都立大学理事)を開催しました。

検討会では、高松トンネルの工事区間の一部で脆弱な地山などが出現し、今年9月にトンネル切羽が崩落した事象を踏まえ、これまでに実施してきた調査、設計ならびに施工などについて審議をおこないました。

#### 1. 議事要旨

##### (1) 第2回検討会議事概要

- ・第2回検討会における議事を確認。

##### (2) トンネル掘削状況

- ・トンネル掘削は11月末時点で坑口から、上り線は1,406m、下り線は1,370mまで掘削完了。9月29日上り線の坑口から1,406mの位置で切羽の崩落や湧水が発生。応急復旧のうえ崩落対策を実施。
- ・崩落箇所の内空および支保部材は安定しており、これまで進めてきた支保構造の効果を確認。
- ・F6断層の規模は今まで想定していた範囲に加え、9月29日の崩落位置からF6断層破碎帯であると推定。

##### (3) 今後の進め方

- ・既往調査に加え追加調査で想定される地層などや、掘進済区間の支保構造・補助工法などを踏まえ、未掘進区間でも、掘進済区間と同等の支保構造や補助工法を継続していく。
- ・断層破碎帯部の補助工法の選択については、補助工法施工時に得られる前方の地質・湧水データを活用しながら、適宜、工法選択していくことを基本とする。
- ・掘削に伴い発生する湧水が、将来にわたり構造物に影響を与えない排水処理などを検討する。
- ・さらなる湧水の発生や切羽の崩落などの発生に備え、現地状況に応じた対策工、効果、課題を整理し、対応するとともに、状況に応じて次回(第4回)検討会を開催する。

以上